



SDGs 未来都市

SDGs Future City TOKUSHIMA

徳島市

2026特別号



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

徳島市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

徳島市が、ヤマハ発動機株式会社及びNPO法人新町川を守る会とともに、令和4年度から取り組んできた「ひょうたん島周遊船の電動化に向けた実証実験」が昨年度末で終了し、次世代電動推進機「HARMO(ハルモ)」を搭載した新たな周遊船(通称:HARMO艇)が、昨年10月から本格運航を開始しました。

このHARMO艇が「水都とくしま」を象徴する地域資源として、ひょうたん島の豊かな自然とともに持続可能な未来への希望を乗せ、地域や観光客の皆様に末永く愛されることを願っております。

徳島市では、このように民間企業や市民の皆さんとのパートナーシップにより、持続可能なまちづくりを推進しております。2030年のSDGs実現に向けて、引き続き多くの皆さんにご協力を賜りますようよろしくお願ひいたします。



徳島市長
遠藤 彰良

水辺のまちづくりの新たな可能性 HARMO艇が切り拓く徳島の未来

徳島市では、水辺のまちづくりの新たな取組として、次世代電動推進機「HARMO(ハルモ)」を搭載した電動船HARMO艇を導入しました。HARMO艇は低振動・低騒音で、環境にやさしく快適な操船が可能です。導入を記念して2025年10月24日に船上座談会が行われ、遠藤市長をはじめ、ヤマハ発動機の吉田様、喜多機械産業の喜多社長、NPO法人新町川を守る会の中村代表が、まちづくりにおける官民連携の重要性や、徳島の未来像について語り合いました。



市長

徳島市は令和4年5月に国から「SDGs未来都市」に選ばれており、SDGsの実現に向けた取組の一つとして「ひょうたん島周遊船の電動化」を進めてきました。事業実施に当たって、ヤマハさんには本当に色々と協力していただきありがとうございました。

吉田さん

私たちはこれから時代にふさわしい新しい動力の一つとして、電動推進機「HARMO」の開発に取り組んできました。徳島市さん、新町川を守る会さんは2023年から3年にわたって連携し、実証実験を行ってきました。何度も試乗会やイベント開催をともに行うことで、HARMOの性能だけでなく、実際の活用方法も含めて現場でテストができたことに大変感謝しています。

中村さん

HARMO艇は非常に音が静かで、これまで

になかった川の楽しみ方が広がったと思います。導入に至るまで徳島市さんやヤマハさんに大きく力添えをいただきましたので、ここからは私たち市民が新たな楽しみ方を提供し、にぎわいを作っていく番だと思います。

市長

これからが本当に楽しみです。そして今回、電動船への給電に当たり、喜多機械産業さんからもリユース太陽光パネルを用いた事業協力を申し出いただき、ありがとうございました。

喜多さん

これまで徳島市さんとはライフル射撃場でリユース太陽光パネルの実証実験を行ってきましたが、今回、水都とくしまを象徴するひょうたん島周遊船が電動化されるという話を聞き、地元企業として何か貢献したいという思いから、声をかけさせてもらいました。

市民の皆さんにはHARMO艇を知ってもら



うと同時に、リユース太陽光パネルや再生可能エネルギーにも関心を持ってもらえばと思います。

市長

企業の皆さんからのご協力の提案は本当にありがとうございます。どうしても自治体だけできることには限界がありますから。初めに申し上げましたが、徳島市は「SDGs未来都市」に選ばれていますので、全国の地方自治体のモデルとなる役割を背負っています。行政と民間企業が連携して、新たな魅力づくりやP

参加者のプロフィール



徳島市長 遠藤 彰良
1955年10月27日生まれ。四国放送(ラジオ・テレビ)にアナウンサーとして入社。平成28年に初めて徳島市 市長に就任し、令和6年に再び市長に。政治信条として「公平・公正・透明な政治」を掲げている。



NPO法人 新町川を守る会 理事長 中村 英雄
1990年「新町川を守る会」を結成し、1999年にNPO法人化。川の清掃や水際公園の整備、イベント開催などを通じて「水の都・徳島」を支えるまちづくりを推進。団体自治大臣表彰など受賞多数。



ヤマハ発動機株式会社 マリン事業本部 国内事業推進部長 吉田 竜也
1992年にヤマハ発動機へ入社し、水上オートバイやボートの開発に従事。33年間にわたりマリン技術の第一線を歩み、2022年よりプール事業を含む現職で、国内マリン事業の発展に尽力している。

ロモーションに取り組んでいきたいと思います。

中村さん

そうやって色々な人たちが参加して、一緒にまちを盛り上げていかないといけませんよね。私は川掃除から始めて、もうかれこれ30年以上が経ちますが、今では企業だけでなく多くの市民の皆さんも参加し、応援してくれています。



市長

SDGsの実現に向けては、行政と民間企業、そしてさらには市民一人ひとりが連携し、一緒に取り組んでいく必要があります。そういった意味でも、今回の取組は単に水辺に新たなコンテンツが加わったというだけでなく、ヤマハのような世界的企業から喜多機械産業さんのような地元企業、そして、これまで徳島市の市民活動をリードされている新町川を守る会さんのようなNPOといった、非常に幅広い主体が連携していることに大きな価値があると思います。

喜多さん

私たちはこれまで太陽光パネルの販売・設置を行ってきましたが、近年では、使用済みパネルの廃棄が課題となっています。企業として「作る責任」と「捨てる責任」の両方を果たすため、今あるものを効率的に使うことこそSDGsの理念に沿うと考え、太陽光パネルのリサイクルやリユース事業に力を入れています。SDGsを自分事とし、一人ひとりの意識が変われば、よりよい未来につながると思います。



喜多機械産業株式会社

代表取締役社長 喜多 真一
1989年徳島生まれ。2013年にUターンして喜多機械産業株式会社に入社。2021年代表取締役社長に就任。新規事業創出や人材育成、ダイバーシティ推進に取り組んでいる。

吉田さん

私たちも今回のHARMO導入を契機として、徳島市さんと包括連携協定を締結させていただきましたので、これまでの取組をさらに発展させるために、引き続き徳島の皆さんと共に歩んでいければと思います。環境に配慮した電動船が広がることで、より持続可能で快適な水辺の環境づくりが実現できると思いますので、今後、徳島市の水辺のまちづくりが全国のモデルケースとして注目されることを期待しています。



市長

皆さんにそういういただいて本当に頼もしいです。今回の取組を契機として、さらに「水都とくしま」の魅力アップに取り組んでいきます。また、他の場面でも多くの企業

や市民の皆さんを巻き込みながら、一緒に地域課題の解決に取り組んでいきたいと思います。

中村さん

まちづくりは私たち市民の行動にかかっていると思います。SDGsという理念は抽象的で、私たちには関係ないと思われがちですが、「自分にできることから始める」ことが何より大切です。そして、それを継続していくことが重要です。市民の皆さんにもまずはこのHARMO艇に乗ってもらい、まちの魅力を感じながら、少しだけSDGsについても考えるきっかけにしてもらえたたらと思います。



市長

今日は本当にありがとうございました。これからも連携の輪がさらに広がっていくよう、引き続きご協力をお願ひいたします。



▲船上座談会では、ナイトクルーズや婚活イベントなど様々な活用アイデアが飛び交い、電動船ならではの静謐性に、「川の流れや水の音をよりはっきりと感じられる」との感想や感嘆の声が上がりました。中村代表は「徳島には今、多くの観光客が訪れています。海外から来られる方も増え、そういう方々にもこの船を体験してもらい、この船を活用することで、徳島の魅力がさらに高まると思う」と期待を述べました。

地方創生AWARDを受賞しました

「ひょうたん島周遊船の電動化に向けた実証実験」と「太陽光パネルのリユース実証実験」の取組が、地方創生SDGsの実現に向けた先進的な公民連携プロジェクトであると評価され、一般社団法人公民連携推進機構が実施した公民連携・地方創生AWARDにおいて、「先進的なSDGs部門」のグランプリをダブル受賞しました。



YAMAHA
Rev's Your Heart

KITAKIKAI

第3回

SDGs ジークス こども 未来チャレンジ

子どもたちにSDGsの理念や具体的な行動について、体験しながら楽しく学んでもらえるイベント「SDGsこども未来チャレンジ」を、10月26日(日)に「とくしまマルシェ」の会場で開催しました。

徳島市と包括連携協定を締結している企業によるSDGs体験ブース、電気で動くひょうたん島周遊船「HARMO艇」の無料試乗体験などの催しが実施され、多くの来場者でまちなかがにぎわいました。

参加企業のご紹介



株式会社 セブン-イレブン・ジャパン セブン-イレブンのSDGs



株式会社
セブン-イレブン・ジャパン

セブン-イレブンは、SDGs達成のため、CO2排出量削減、プラスチック削減、食品ロス削減、持続可能な調達など、多岐にわたる取組を進めています。

生活協同組合 とくしま生協 エコバッグに絵をかいてみよう



とくしま生協

「誰一人取り残さない社会」を目標にSDGsの活動に取り組んでいます。食品ロス削減や平和活動、市町村との見守り協定、障がい者雇用、リサイクルを含めた環境問題への対応など様々です。

喜多機械産業 株式会社 どんぐりチャレンジ



どんぐり10個持参でグッズが当たるガチャガチャにチャレンジしてもらいました。なお、集まったどんぐりは植樹イベントで活用される予定です。

KITAKIKAI

喜多機械産業は建設機械の販売・レンタル・修理を主幹事業とし、近年は「人と自然と未来のために」を方針に、街の活性化や農業参入、農地再生、再エネ事業、災害対策などの事業を通じて、お客様だけでなく地域に求められる会社を目指し取り組んでいます。

株式会社 日産サティオ徳島 日産わくわくエコスクール



電気自動車と環境問題を考えるミニ授業のあと、実際に電気自動車のモデルカーを作って実験をしました。

株式会社日産サティオ徳島

日産サティオ徳島では、地域モビリティの効率化、公用車シェアによる脱炭素化、太陽光発電の導入、働きやすい職場づくり、障がい者就労支援、大学・自治体との連携による地域課題解決などを通じ、持続可能な地域社会の実現を目指しています。

徳島トヨペット 株式会社 未来へつなぐ脱炭素体験



カーボンニュートラルを感じられるクイズラリーに挑戦し、参加者自らのエコアクションを宣言してもらいました。

株式会社 マーキュリー 夢への一歩！自分の将来を描こう！



自分と向き合い、目標を立て、達成への道筋を考える、「マンダラチャート」を作るワークショップを行いました。

MERCURY

株式会社マーキュリーは、社会と人をつなぎ「すべての人」の可能性を広げる、ミッションに、個人と社会の両方に“人”を軸としたさまざまな価値を提供し、持続可能な未来に貢献するため、人材事業・教育事業を幅広く展開しています。

徳島市 SDGs 公民連携プラットフォーム Co × Lab Tokushima

Co×Lab Tokushima(コ・ラボトクシマ)は徳島市が抱える課題を民間事業者と市が共有し、ともに未来を創るためにプラットフォームです。これまで実施してきた公民連携プロジェクトなどを紹介していますので、ぜひご覧ください。



地域課題解決に 資する企画募集

Policy Fund



徳島市は株式会社 PoliPoli (東京都千代田区) と包括連携協定を締結し、同社が設立した寄付基金「Policy Fund」を通じた政策共創に取り組んでいます。

まちの活性化やゼロカーボンシティの実現など、多くの地方自治体が抱える課題解決に向けて、全国の企業やNPOの皆さまからの提案をお待ちしています。

